

ワークショップ(第3回)概要

○日時 2022年8月29日(月) 13時00分から16時30分

○場所 TOTO テクニカルセンター大阪

○議題 みんなでトイレプラン作成チャレンジ

○出席者

エキスパート	石塚裕子			
お困りごと当事者 14人	車いす使用者	3人	発達障がい者(親と参加)	0人
	視覚障がい者	2人	発達障がい者の親	1人
	聴覚障がい者	2人	LGBTQ+	1人
	精神障がい者	1人	医療的ケア児(親と参加)	2人
	知的障がい者(親と参加)	1人	子育て世帯	1人
	知的障がい者の親	0人		
作り手企業	TOTO 株式会社			
業務受託者	株式会社東畑建築事務所			
傍聴	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課			

○配慮事項

事前説明会の開催(資料のワードテキスト文書(事前送付)、要約筆記)、手話通訳、UDトーク、福笑い方式の模型(トイレ案作成用パーツ)、災害補償保険

○議事要旨

● 事前説明会の開催(8月25日午前・午後)

みんなでトイレプラン作成チャレンジのワークショップを開催にあたり、事前に説明会を開催した。説明会では、エキスパートからワークショップの趣旨として、これまでの当事者参加のワークショップは、使い勝手や必要な整備について当事者から意見をもらう場であったが、大阪パビリオンのワークショップは、当事者も担い手としての参加を実現し、一緒に知恵を出し、考えていく場を作っていくことと説明があった。また、今回は、トイレブース内の手すりやボタンの位置等を確認するのではなく、トイレの数、配置、動線の3点に絞ってトイレのプランを一緒に考えていくこと、当事者にLGBTQ+や重度の知的障がいがある当事者本人とその親、医療的ケアが必要な方とその親も参加することが伝えられた。

事務局からは、パビリオンのトイレの概要(パビリオン内の位置や周辺のトイレ)について説明した後、トイレのテーマを「誰もが使いやすい、ミライのトイレ」、コンセプトを「トイレの既成概念を変える、チャレンジングで心に響くトイレ」「みんなが自然に使える、壁・境界やバリアのないトイレ」「人の気持ちに寄り添った案内と設備を設けたストレスフリーなトイレ」とし、トイレに対する意識と行動を変えるトイレをめざすことを伝えた。また、当日のワークショップの進め方や流れ、「福笑い方式」の模型を使ったプラン案の作成、必要な器具数の目安及びブースの大きさ等について説明した。

● 当日のワークショップ

TOTOのショールームで福笑い方式のパーツに対応したトイレブースを体験し、オストメイト用設備等の実物を確認した。その後、3班に分かれてトイレ案を作成し、各班から発表した。

大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn
OSAKA Healthcare Pavilion: Nest for Reborn

トイレプラン 検討の進め方

2022年8月

一般社団法人 2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

①はじめに

②エキスパートより

③大阪パビリオンのトイレについて

- ・概要（トイレ配置、周辺のトイレ など）
- ・テーマ、コンセプト
- ・プラン作成の進め方

④29日のワークショップの進め方

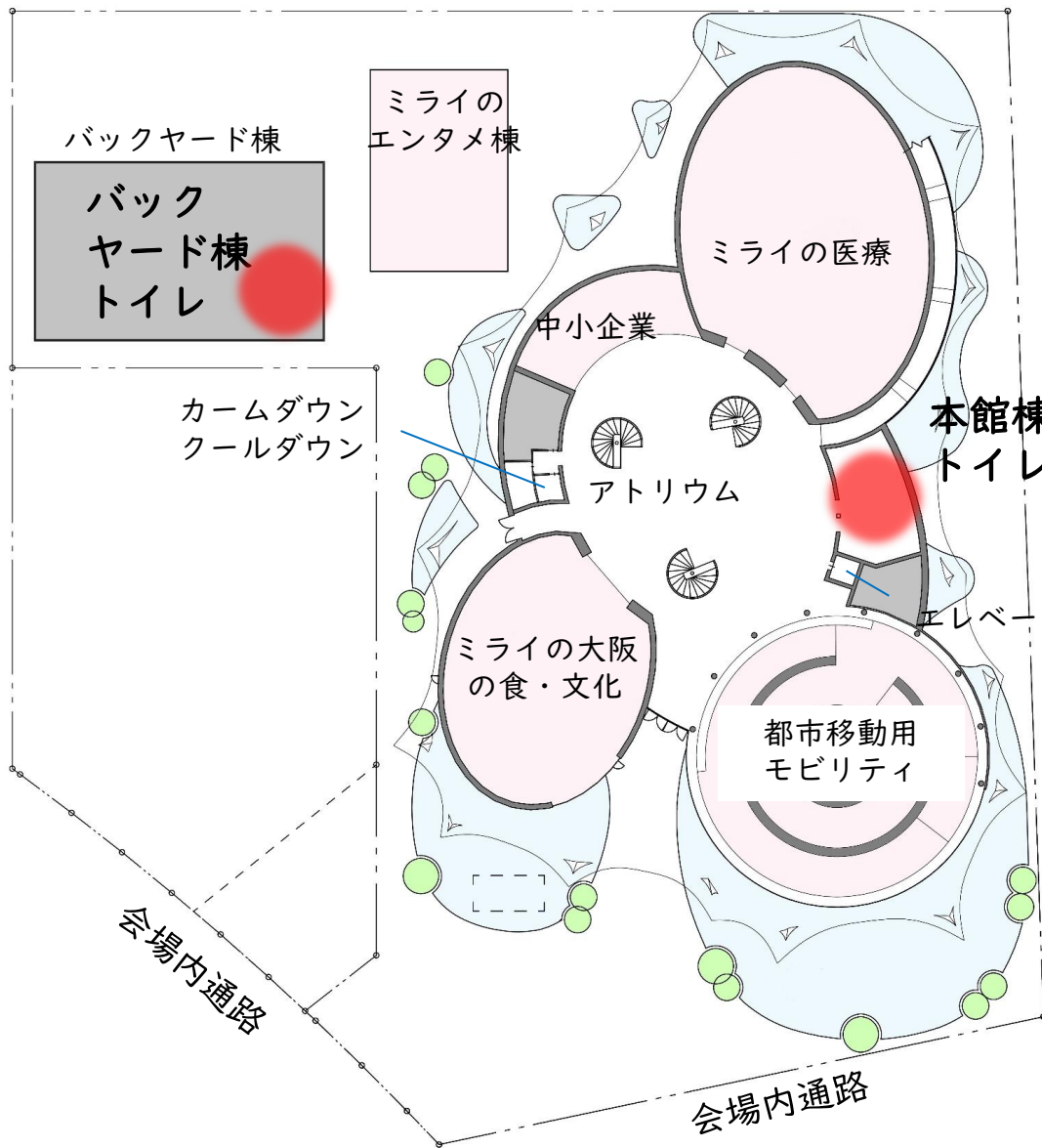
⑤みんなでプラン作成チャレンジの参考情報

- ・器具数の目安
- ・事例紹介

⑥事務連絡

- ・保険加入、交通費、写真撮影のおことわり

大阪パビリオンのトイレについて（概要）



<本館棟トイレ>

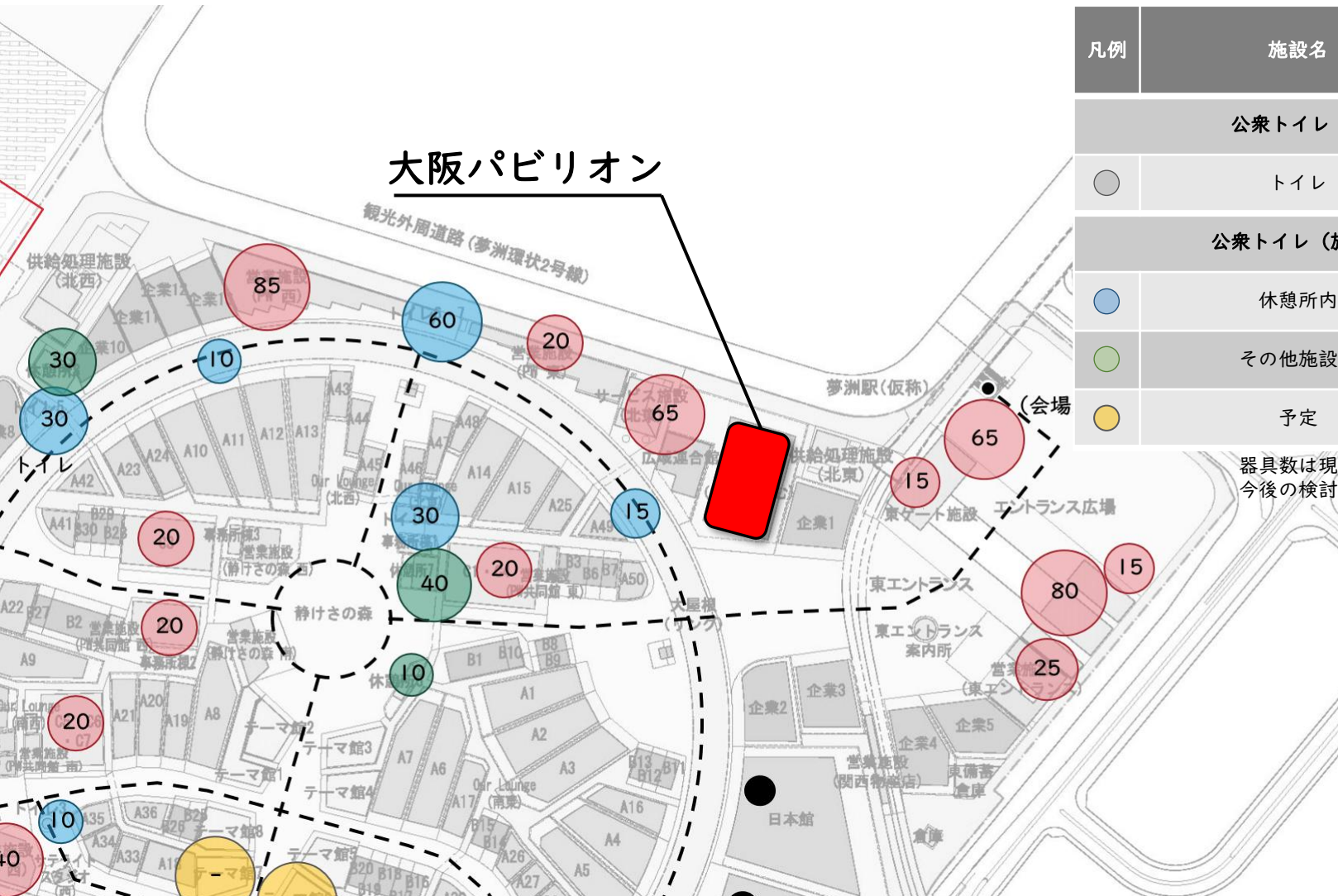
- ・本館棟来館者用
- ※本館棟2階にも数ブースのトイレを設置予定

<バックヤード棟トイレ>

- ・「ミライのエンタメ棟」来館者用

大阪パビリオンのトイレについて（周辺のトイレ）

- 主要動線
- 数字：器具数合計



凡例	施設名	器具数 (合計)
公衆トイレ (単独)		
○	トイレ	約260
公衆トイレ (施設付帯)		
●	休憩所内	約110
●	その他施設内	約1,135
●	予定	未定

器具数は現時点での計画数であり、今後の検討・設計により変更します。

テーマ 誰もが使いやすい、ミライのトイレ

コンセプト

本館棟トイレ

- ・トイレの既成概念を変える、チャレンジングで心に響くトイレ
- ・みんなが自然に使える、壁・境界やバリアのないトイレ
- ・人の気持ちに寄り添った案内と設備を設けたストレスフリーなトイレ

▶ トイレに対する意識と行動の変容

バックヤード棟トイレ

- ・短期イベントでも、ユニバーサルデザインに対応した環境にやさしいトイレ⇒プレハブ（レンタル）の採用

▶ 仮設トイレに対する意識の変容

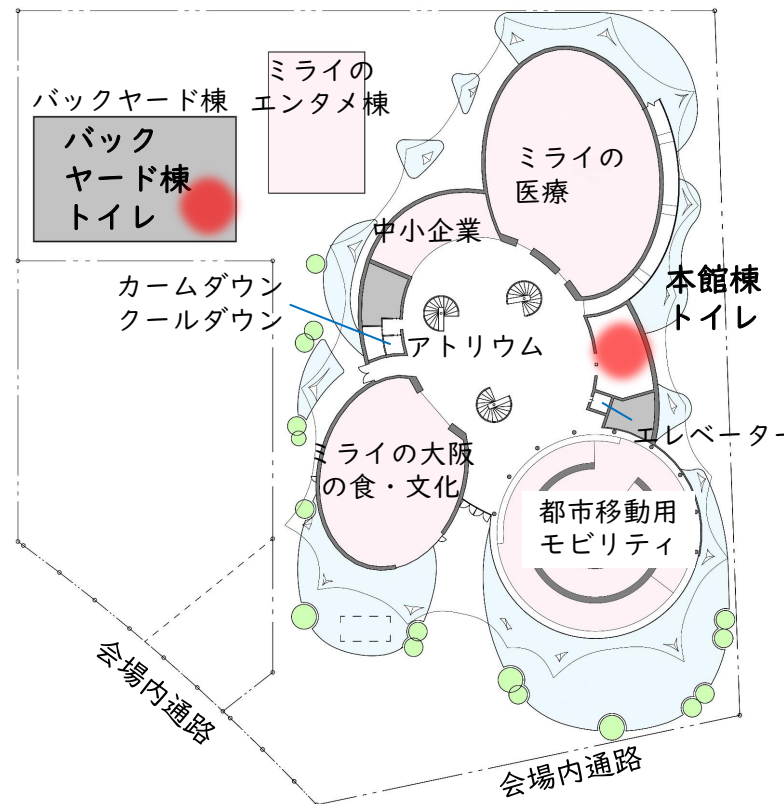
プラン作成の進め方

本館棟トイレ

- ・当事者が参加した作成過程を重視
 - ⇒ワークショップ形式で、みんなでプラン作成にチャレンジ
 - ⇒みんなの複数プランのエッセンスを踏まえ、事務局がプラン案作成

バックヤード棟トイレ

- ・仮設トイレ（レンタル）におけるUDの強化を重視
 - ⇒設計検討過程でメーカーと協議し、製品仕様の改善にチャレンジ
 - ⇒事務局プラン案を作成、提示



プラン作成の進め方（本館棟トイレ）

本館棟トイレ プラン作成の進め方

事前説明 8月25日 ※オンライン

みんなでプラン作成 8月29日 ※対面ワークショップ

参加者：エキスパート、当事者のみなさん、作り手企業、業務受託者

事務局プラン案説明 9月下旬 ※対面orオンライン

・発表案のエッセンスをもとに事務局でプランを作成

事務局最終案提示 10月中旬 ※オンライン

※仕様等のモックアップ検証等は、11月下旬以降の予定

配席図 (班分け)

発表用ホワイトボード

オンライン中継用webカメラ (発表時はホワイトボード撮影)

石塚先生

ファシリテーター

+1名 視覚障がい者

知的障がい者の親

A班
7名

精神障がい者

車いす使用者

医療的ケア児・親

作り手
企業

作り手
企業

ファシリテーター

視覚障がい者

医療的ケア児・親

B班
7名

子育て世帯 (支援)

車いす使用者

聴覚障がい者

ファシリテーター

+1名 視覚障がい者

車いす使用者

作り手
企業

知的障がい者・親

発達障がい者の親

聴覚障がい者

C班
8名

LGBTQ+

UDトーク補助

手話通訳

UDトーク補助

- 写真撮影スタッフ (事務局)
- 業務受託者

29日のワークショップの進め方

みんなでトイレプラン作成チャレンジ

① 本日の進め方 (5分)

② ショールームでの体験 (50分)

- ・ 様々なサイズの大便秘器ブースの体験
- ・ オストメイト用設備などの実物見学



③ 各班でトイレ案作成 (90分) 各班で適宜休憩

- ・ 各班でバリアフリーラボでブースの大きさ等を再確認もOK

④ 各班から発表・質疑 (10分×3班=30分)

- ・ プラン案の発表
- ・ 出た意見、悩んだポイント 等



⑤ 総括 (20分)

- ・ 今後のスケジュールなど (事務局)
- ・ コメント (TOTO、東畑)
- ・ 石塚先生より

② ショールームでの体験

「プラン作成チャレンジ」で使う便房パーツの大きさをあらかじめバリアフリーラボで体験していただけます。

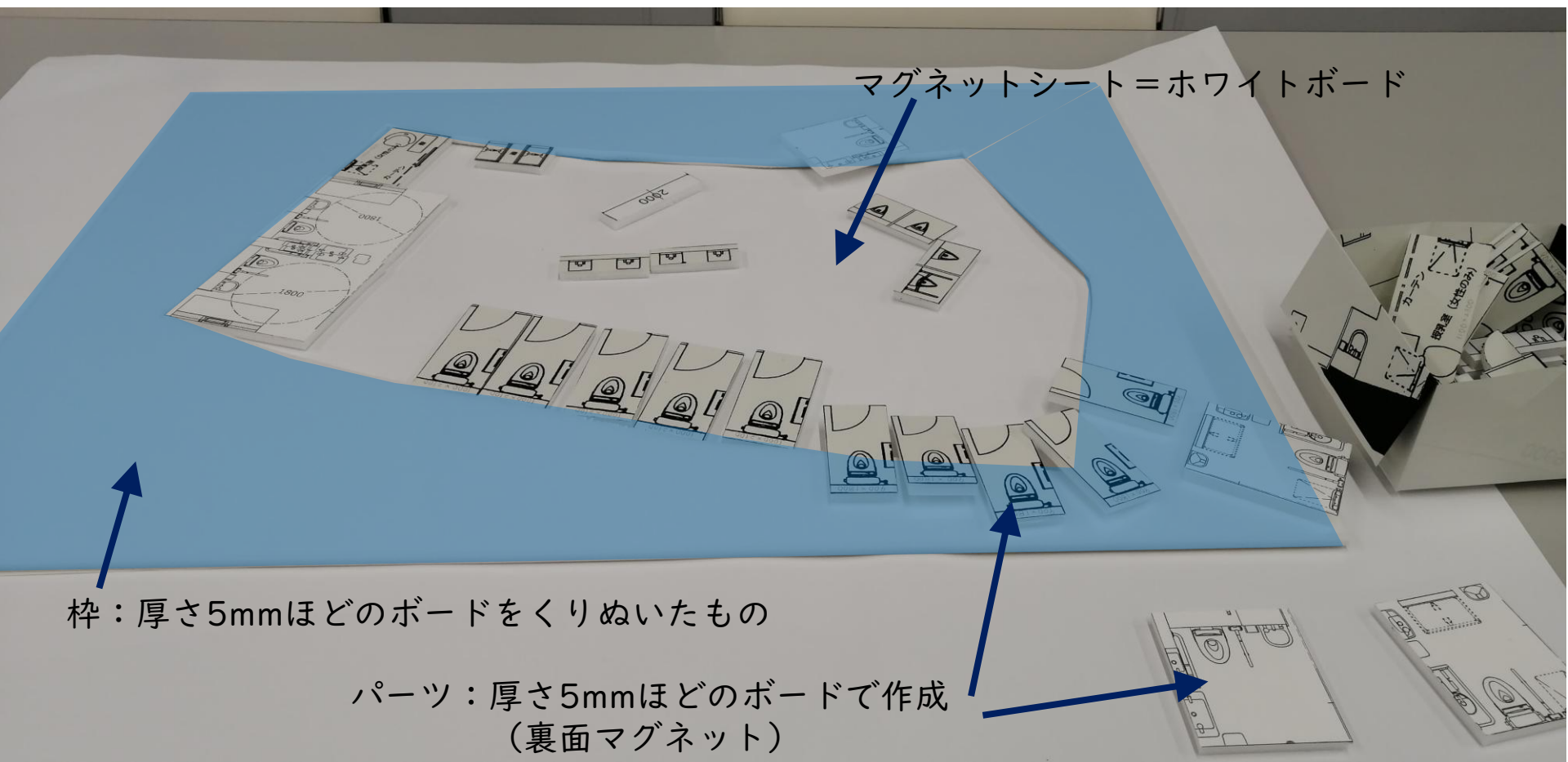
- 車いす使用者用便房 (大型バリアフリースイットイレ)
 - ・ 2,400mm×2,450mm
- 車いす使用者用簡易型便房
 - ・ 1,700mm×1,900mm (オストメイト用設備)
 - ・ 1,600mm×1,950mm (乳幼児配慮設備)
- 一般便房
 - ・ 900mm×1,800mm
 - ・ 1,000mm×2,100mm

プラン作成チャレンジ中にサイズ感が気になったら、バリアフリーラボに戻って確認できます。



29日のワークショップの進め方 (トイレプラン作成チャレンジ)

③ 各班でトイレ案作成



- ・縮尺25分の1の立体「枠」と「パーツ」を使って、プランを作成
- ・準備したパーツ以外にも、ホワイトボードマーカーで書き込み可能

必要な器具数の目安

○便器・手洗い

- ・大便器 10個（車いす使用者用等を含む）
- ・小便器 4個
- ・手洗器 7個

想定来館者数（本館）	約145万人
	約7,800人/日
	約600人/時間
⇒ 必要な衛生器具の個数の目安	
男子大便器	4個
男子小便器	4個
女子大便器	6個
手洗器	7個（※給排水衛生設備規準より）

みんなでプラン作成チャレンジで使うパーツ一覧

○便房、便器

- ・一般便房：900mm×1,800mm、1,000mm×2,100mm（大きめ）
- ・小便器
- ・車いす使用者用便房：2,400mm×2,450mm（大型ベッド、オストメイトが入る大きさ）
- ・車いす使用者用簡易型便房：1,700mm×1,900mm（オストメイトが入る大きさ）
1,600mm×2,100mm（おむつ替え、フィッティングボードが入る大きさ）

○その他設備・機能

- ・手洗い
- ・乳幼児連れ配慮設備（授乳室、おむつ替えベッド、キッズトイレ など）
- ・掃除用流し

※その他、必要なモノはホワイトボードマーカーで書き込んでください。
（例：休憩ベンチ、パウダールーム、大きめトイレ などなど）

大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn

OSAKA Healthcare Pavilion: Nest for Reborn

みんなの
トイレワークショップ

2022年8月

一般社団法人 2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

みんなのトイレワークショップのポイント

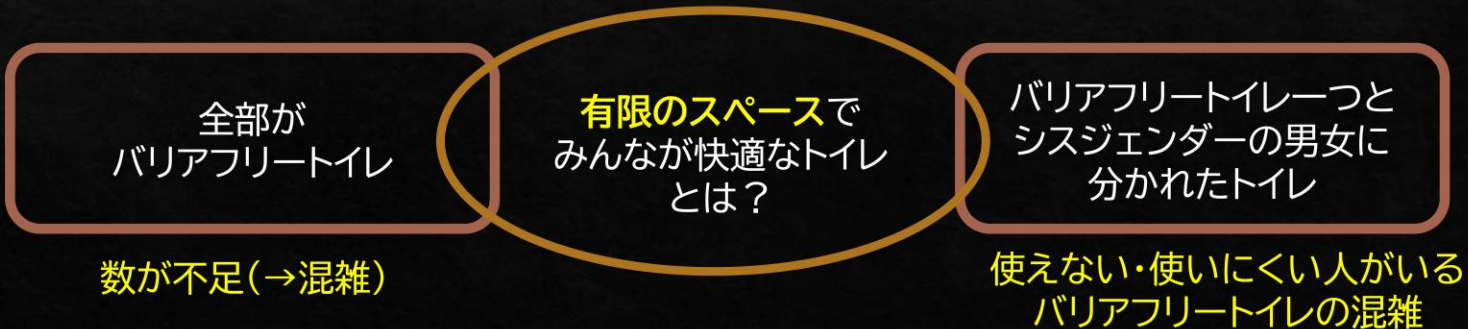
【目的】

エンドユーザーとしてだけでなく、**担い手**としての参加を実現する

使い勝手や整備量の交渉だけでなく、制約条件の中で共に考えるパートナーになれるような参加の場をつくること。

【今回のポイント】

1. 主な検討対象は、トイレの「数」、「配置・動線」（個々の設備の使い勝手は次の機会に）
2. 完璧な正解はない。（だから万博で実験しよう！）



本日の予定

1. はじめに

~13:10 (10分)

2. ショールームでの体験

~14:00 (50分)

- ・ パーツリストにある大便器ブースの体験（特性による3グループ体制）
- ・ オストメイト用設備などのトイレ設備の実物見学

3. 各班でトイレ案作成

~15:30 (90分)

- ・ 各班ごとに適宜休憩
- ・ バリアフリーラボに戻って、ブースの大きさ等を再確認OK

4. 各班から発表・質疑

~16:00 (30分) ※10分×3班

- ・ 各班からプラン案の発表
- ・ A班発表→質疑、B班発表→質疑、C班発表→質疑

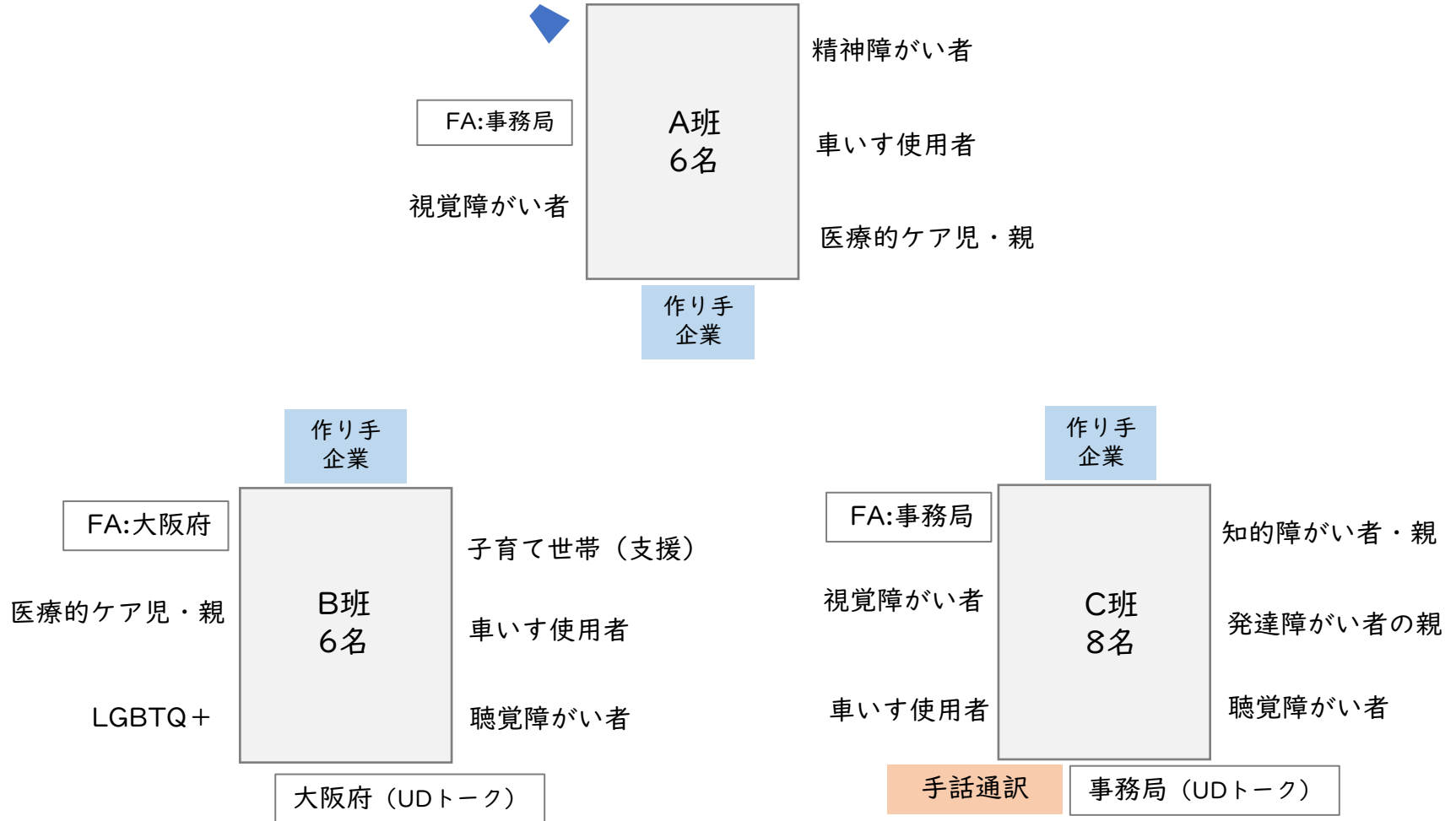
5. おわりに

~16:20 (20分)

配席図

発表用ホワイトボード

オンライン中継用webカメラ（発表時はホワイトボード撮影）



【資料 1】 220825_トイレプラン検討の進め方（事前説明資料）

資料の内容は、以下の3点です。

- 1 大阪パビリオンのトイレの概要、コンセプト、プラン作成の進め方
- 2 29日のワークショップの進め方
- 3 29日のプラン作成チャレンジの参考情報（事例紹介は別のファイルです）

（パワーポイント資料 2ページ目）

事前説明の次第

- 1 はじめに
- 2 エキスパートより
- 3 大阪パビリオンのトイレについて
 - a 概要（トイレ配置、周辺のトイレ など）
 - b テーマ、コンセプト
 - c プラン作成の進め方
- 4 29日のワークショップの進め方
- 5 みんなでプラン作成チャレンジの参考情報
 - a 器具数の目安
 - b 事例紹介
- 6 事務連絡
 - a 保険加入、交通費、写真撮影のおことわり

（パワーポイント資料 3ページ目）

大阪パビリオンのトイレについて（概要）

大阪パビリオンの建物の配置図。本館棟、ミライのエンタメ棟、バックヤード棟の3棟があります。敷地の右側3分の2くらいの範囲に本館棟があります。敷地の左上に別棟で、ミライのエンタメ棟、バックヤード棟が並んでいます。

来館者用のトイレとして、本館棟のアトリウム右側と、バックヤード棟右下の2か所に場所を示しています。

本館棟トイレは、本館棟来館者用のトイレで、本館棟の1階にあり、2階にも数ブースのトイレを設置予定です。

バックヤード棟トイレは、映像展示をする予定のミライのエンタメ棟の来館者用トイレで、バックヤード棟内の、ミライのエンタメ棟に一番近い場所にあり、ミライのエンタメ棟を出てすぐの場所にあります。

(パワーポイント資料 4ページ目)

大阪パビリオンのトイレについて (周辺のトイレ)

大阪・関西万博の会場図を示しています。

会場内のパブリックトイレの場所が円で示されており、円の中の数字が、各トイレの器具数を表しています。

大阪パビリオンのすぐ左側には65基のトイレ施設があり、すぐ左下の休憩所内には15基のトイレがあります。また、大阪パビリオンの下側(南側)のメインストリートを右(東)に150メートルほど進むと東エントランスがあり、ここには合計200基ほどのトイレがあります。

(パワーポイント資料 5ページ目)

大阪パビリオンのトイレのテーマとコンセプト

テーマは、誰もが使いやすい、ミライのトイレ。

本館棟のトイレのコンセプトは、以下の3つです。

- 1 トイレの既成概念を変える、チャレンジングで心に響くトイレ
 - 2 みんなが自然に使える、壁・境界やバリアのないトイレ
 - 3 人の気持ちに寄り添った案内と設備を設けたストレスフリーなトイレ
- これらにより、トイレに対する意識と行動の変容をめざします。

バックヤード棟のトイレは以下のとおりです。

- 1 短期イベントでも、ユニバーサルデザインに対応した環境にやさしいトイレ
- バックヤード棟はプレハブなので、トイレもレンタル品を採用する見込みで、仮設トイレに対する意識の変容をめざします。

(パワーポイント資料 6ページ目)

プラン作成の進め方

本館棟トイレは、当事者が参加した作成過程を重視し、ワークショップ形式で、みんなでプラン作成にチャレンジし、そのエッセンスを踏まえて事務局がプラン案を作成します。

バックヤード棟トイレは、仮設トイレ(レンタル)におけるUDの強化を重視し、設計検討

過程でメーカーと協議、製品仕様の改善にチャレンジし、事務局プラン案を作成、提示します。

(パワーポイント資料 7ページ目)

プラン作成の進め方 (本館棟トイレ)

本館棟トイレのプラン作成の進め方、スケジュールです。

8月25日が事前説明。

8月29日が、みんなでプラン作成を対面ワークショップで実施。

ワークショップのエッセンスをもとに、事務局がプラン案を作成し、9月下旬にご説明。

10月中旬に最終案をご提示。

という流れです。

トイレの仕様等、詳細のモックアップ検証などは11月下旬以降を予定しています。

ここまでが、大阪パビリオンのトイレについての説明です。

ここからは、29日のワークショップの説明をさせていただきます。

(パワーポイント資料 8ページ目)

配席図

29日のワークショップを行う会議室の配席図を示しています。

トイレプランの検討にあたりましては、作り手企業であるTOTO株式会社に全面的にご協力をいただいております。29日も場所をお借りしてワークショップを行います。

ワークショップはA班、B班、C班の3つの班に分かれて行います。

会議室前方の中央にA班が、その左後ろにB班、右後ろにC班があります。

正面には発表用のホワイトボードがあり、ホワイトボードに向かって左側に石塚先生の席があります。

各班には、事務局の人がファシリテーターとして一人ずつ座ります。

また、作り手企業(TOTO株式会社)も一人ずつ、アドバイザーとして座っていただけます。

A班は当事者の方が5名、介助者の方を含めると7名です。

B 班は、当事者の方が 6 名、介助者の方を含めると 7 名です。

C 班は、当事者の方が 5 名、介助者の方を含めると 8 名です。
他に、手話通訳の方が入ります。

(パワーポイント資料 9 ページ目)

29 日のワークショップの進め方

みんなでトイレプラン作成チャレンジの流れです。

- 1 本日の進め方 (5 分)
- 2 ショールームでの体験 (50 分)
- 3 各班でトイレ案作成 (90 分)
- 4 各班から発表・質疑 (10 分ずつ)
- 5 総括 (20 分)

TOTO テクニカルセンター大阪の施設内にあるショールームで体験していただいた後、プラン作成にチャレンジしていただき、各班から成果を発表していただくという流れになります。

プラン案の作成は、後述しますが、班ごとに、福笑いのような感じでチャレンジしていただきます。

(パワーポイント資料 10 ページ目)

29 日の、ショールームでの体験の説明

ショールームでの体験の説明です。プラン作成チャレンジで使う便房パーツの大きさをあらかじめショールームで体験していただけます。

- 1 車いす使用者用便房 (大型バリアフリートイレ)
大きさは、2,400 ミリかける 2,450 ミリ
- 2 車いす使用者用簡易型便房
大きさは、1,700 ミリかける 1,900 ミリのものが、オストメイト用設備を備えたもの
1,600 ミリかける 1,950 ミリが、乳幼児配慮設備を備えたもの
- 3 一般便房
大きさは 900 ミリかける 1,800 ミリのものと、
少し大きめの 1,000 ミリかける 2,100 ミリのもの

プラン作成チャレンジ中にサイズ感が気になったら、ショールームに戻って確認できます。

(パワーポイント資料 11ページ目)

29日の、各班でトイレ案作成の説明

トイレ全体の外枠、トイレ内に配置を検討する便房などのパーツの写真を示しています。外枠は、厚さ5ミリほどのボードをくりぬいたもの。パーツも同じ厚みのボードで作成しています。

福笑いのような感じで、各班で配置の検討をしていただきます。

縮尺は25分の1です。

底面はマグネットシートになっており、パーツの裏にもマグネットが貼り付けてあるので、くっつきます。

また、マグネットシートはホワイトボードになっているので、準備されているパーツ以外のものも、ホワイトボードマーカーで書き込みが可能です。

(パワーポイント資料 12ページ目)

29日の、プラン作成のための参考情報

必要な器具数の目安は、大便器が車いす使用者用を含み10個、小便器が4個、手洗い器が7個です。

大阪パビリオンで想定している来館者数は、1日当たり7,800人で、給排水衛生設備基準により算出された、目安の数字です。

11ページでご覧いただいた、プラン作成チャレンジで使うパーツは、次のとおりです。

便房、便器は、一般便房が900ミリかける1,800ミリのものと、1,000ミリかける2,100ミリのものの2種類、小便器、車いす使用者用便房が2,400ミリかける2,450ミリのもの、大型ベッド、オストメイトが入る大きさです。車いす使用者用簡易型便房が1,700ミリかける1,900ミリのものがオストメイトが入る大きさで、1,600ミリかける2,100ミリがおむつ替えベッドやフィッティングボードが入る大きさです。

その他設備や機能としては、次のものがあります。

手洗い、授乳室、おむつ替えベッド、キッズトイレなどの乳幼児連れ配慮設備、掃除用流し
です。

その他、必要なモノはホワイトボードマーカーで書き込んでください。